

登録コード:MH324200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	日常生活活動【20M以降】 Activities of Daily Living		
担当教員	横川 吉晴 百瀬 公人・務臺 均・北川 孝・中村 慶佑		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻 / 2学年 前期 金曜・3時限		
単位数、講義室	1 単位	保健学科診断訓練実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	人の日常生活活動全般を学び、理学療法の評価・実践との関連を理解し、説明することができる
	MH25カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・理学		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。 ≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	疾患および障害特異的な日常生活活動全般を学び、理学療法の評価・実践との関連を理解し、説明することができる 疾患および障害特異的な日常生活活動全般を学び、理学療法の評価・実践との関連を理解し、課題解決の方法を説明することができる
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	日常生活で必要とされる動作・運動能力を中心に、神経系疾患患者や運動器系疾患患者などが生活場面で遭遇する各種の問題点について学ぶ。理学療法の対象となる基本的な疾患・障害のADLについて理解を深め、理学療法士の関与の必要性と、支援の方法論を一部実習を交えて学習する。 本授業は担当教員の臨床における理学療法士としての実務経験を活かして講義を行います。1年次に学んだ「運動学」の知識と連結し、2年次の「運動学習理論」、「運動学実習」の内容と相補的に学んでいくことになります。そして、本授業の内容は、3年次に学ぶ疾患別の理学療法、ならびに、4年次の臨床実習における重要な基礎知識となります。		
授業計画	第 1回 (4月10日) ADLの定義(横川) 第 2回 (4月17日) ICF・生活関連活動(横川) 第 3回 (4月24日) 生活支援機器と住環境(横川) 第 4回 (5月 8日) ADLの評価(横川) 第 5回 (5月15日) 自助具(横川) 第 6回 (5月22日) 中枢神経障害と身体機能(中村) 第 7回 (5月29日) 中枢神経障害と身体機能(中村) 第 8回 (6月 5日) パーキンソン病とADL(中村) 第 9回 (6月12日) 関節リウマチとADL(岡野) 第10回 (6月19日) ADLと呼吸・嚥下・栄養(百瀬) 第11回 (6月26日) 筋萎縮性側索硬化症とADL(岡野・外部講師「境をこえて」) 第12回 (7月 3日) 脊髄損傷と身体機能1(百瀬) 第13回 (7月10日) 脊髄損傷と身体機能2(百瀬) 第14回 (7月17日) 脊髄損傷とADL * (百瀬) 第15回 (7月24日) 脊髄損傷とADL * (百瀬)・授業アンケート実施 第16回 (7月31日) 筆記試験		
授業の進め方	ADLの基本的な内容についての講義と基本的動作、身近処理動作の体験・観察を行うことにより動作の多様性を確認する。その上で、疾患・障害ごとのADL障害の概要と理学療法的介入方法の基本について学習する。 ＊第11回は212教室に変更する予定 ＊第14回・第15回はゲストのご協力を得て実際のADLを学ぶ機会とするため、7/15(水)3・4・5コマにて実施する予定。		
テキスト、教材、参考書	テキスト 伊藤利之(著、編)、江藤文夫(編)、中村春基(編):新版 日常生活活動(ADL)第2版―評価と支援の実践―、医歯薬出版、2020		
成績評価の方法	期末試験に基づいて総括的に成績を評価します。 期末試験では日常生活活動の総論・ADLの定義・各種評価方法・各疾患別のADLの特性や動作支援方法などの理解度を確認します。 期末試験得点の60%以上を合格とします。		
成績評価の基準	期末試験による成績評価の判定基準は以下の通りとします。 90-100点:秀 80-89点:優 70-79点:良 60-69点:可 授業で示した例題と同レベルの問題が解ける、あるいは実技が実施できれば「水準にある(可)」, 応用問題が解ければ「やや上にある(良)」, やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある(優)」, 例題 からは難しい応用問題が解ければ「卓越している(秀)」と判定します。		

事前事後学習の内容	【事前学習について】 毎回、授業の終わりに次回までに調べておくべき内容について説明します（一部を除く）。 【事後学習について】 前週の授業内容の理解を問う小テストを毎回授業冒頭に行う。それに備えるための資料を毎回配布するので、それを使って授業内容を毎回復習してから授業に挑むこと。 本授業の単位修得に45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	＊第14回（7月17日）と第15回（7月24日）は、7/15水曜日午後に変更し、3コマ連続講義となります（予定）。 質問への対応：横川吉晴 fhakuba@shinshu-u.ac.jp 質問，相談は各項目担当教員が主に担当しますが、その他の教員も随時対応します。 オフィスアワー 随時（要事前連絡） 横川研究室